

あの時、異常振動

キャッチされた「ビキニ水爆」

微圧計に大きな波

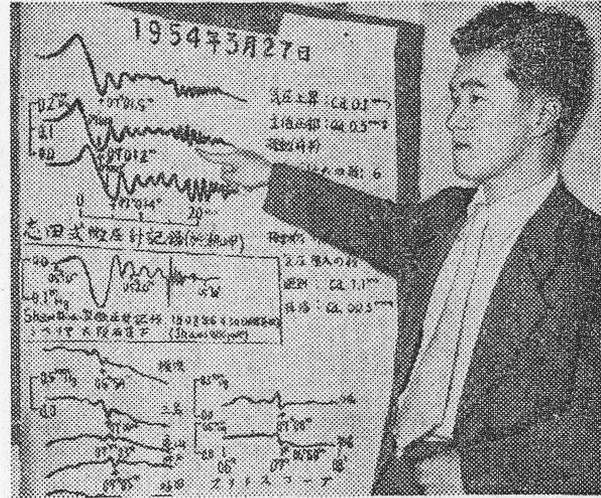
京大の一学徒が発見

ビキニの空を襲わせ、日本人の生活に大きな脅威を与えた水爆爆発の振動が日本に伝わり、微圧計にキャッチされ、この結果、アメリカが今年に入つて行つた五回の爆発中秘密とされていた最後の二回が、四月二十六日と五月五日に行われたことが明らかとなった。これは京大の若い学徒が他の研究をしている間に偶然見つけた拾い物だが、この大きな拾い物は学界に重要な問題を提起している。

京大地球物理学教室の大学院生 山元龍三郎氏(三七)は二十七年一月以来、滑川忠実教授指導の下に潮期は最初二分、ついで一分となり、十数分後に平常に戻り、最大振幅は水銀柱約二ミリで、同氏の三年間

の研究中にもより滑川教授の十年におよぶ研究でも見たことのないものであった。

そして、この曲線が一九〇八年六月三十日シベリアに大イン石が落下した時イギリスでキャッチしたものと酷似している所から大規模な爆発によるものと推定、各地の気象台、測候所に調査を依頼したところ鳥島六時三十分、横浜六時五十四分、三島七時、龜山七時三分、神戸七時五分、福岡七時二十分(各地ともスプリング式自記気圧計で測



山元氏は五月二十日東京で開かれた日本気象学会にこの結果を発表したのち六月初め潮岬に赴いてその後の記録をまとめこの程帰洛したが、四月二十六日と五月五日とも朝六時四十分、前と同様な異常曲線を記録、とくに五日のは今までの最大で振幅三半に及んでいることを明らかにした。

この二回はアメリカ側で発表しなかつたものであるが、四月二日グラフを前に「あの瞬間」を説明する山元氏

未発表分も記録

十六日の分については五月三十一日大阪、新潟などに放射能雨が降つた②ジュネーブ会議への刺激を避けてとくに日露を避んで極秘裏に爆発させたという信頼すべき情報があるの二点から、また五月五日の分については④十四、十六日に京都の八万カウントはじめ全国各地に放



射能雨が降つた③は危険が去つた十三日、米原子力委が実験終了と危険区域解除を発表したの二点からそれぞれ爆発の行われたことを断定できるわけである。

この研究は単に水爆実験の日時を明らかにしただけでなく、学問的に

定にそれぞれ潮岬と同様の曲線を描いておらず。それによつて地図の上に等時線を引いてみると振動の進行速度は音速をほぼ等しいこと、方向がビキニと完全に一致することが判つた。山元氏は更に福龍丸が被害を受けた三月一日について調べてみると二十七日以上の振動がはつきり記録されており、鳥島以下の測候所も同様であった。しかも、等時線により、方向、時刻を逆算すると、福龍丸乗組員が証言する一日朝四時十二分とビキニに合致する時刻にビキニで異常現象があつたという結果になり、水爆による振動と断定するに至つた。

次いで二分という振幅が大変それ自身の性質によるものではないかという問題を学界に提出したことがある。山元氏は今後も潮岬での観測に従事する一方この難問を解明に四つに取組んでいくそうである。

山元龍三郎氏談 カレーが常に同じ形をしており、水爆によることとは間違いないと思ひます。滑川教授も僕と同意見です。四月六日の分ははつきりしたカーブが出来ておりましたが、これは大風、雷雨前線通過などの気象により乱されたためです。

京都新聞 (昭和二十九年五月十五日)